

# ～楽しみ方はひとそれぞれ～ WARCバンドで広がるハムライフ

## 「WARCバンド・アンケート」全回答のご紹介

CQ ham radio 2011年10月号の特集記事「WARCバンドで広がるハムライフ」内でご紹介している「WARCバンド・アンケート」、貴重なご意見を多数お寄せいただきましたが、ページの関係ですべての回答をご紹介できませんでした。PDFにて全回答をご紹介しますので、ぜひご覧ください。 CQ ham radio編集部

1) WARCバンドに出始めたきっかけは？
当時はアママンで、自宅および移動先でのアンテナは、ロングワイヤとチューナを使用していました。移動先ごとにSWRの下がる周波数が異なるのですが、WARCバンドがあったおかげで運用のチャンスが増えて嬉しかったです。またイクメンしていたころは、ちょうど10MHz帯でショートQSOの交信が多い時期であったこともあり、育児の合間に数分間ずつ運用するのに向いていました。
DXCC CHALLENGEアワードを始めてクラシックバンドでの限界が見えたので、WARCバンドを必然的に始めました。10MHz、18MHzのRTTY、CWを中心に運用しています。
平成元年7月1日から、18MHzと24MHzが割り当てられ、どのようなコンディションなのか、またどのような電波伝搬するのか興味があつた。18/24MHzのSSBとCWをよく聞いています。
10MHzのGPを作って10MHzに出るようになってから、DXペディションでもWARCバンドによく出てくるようになったので18MHz、24MHzにも出られるようアンテナを上げました。開いていればどこにでも出ます。最近では18MHzが面白いですね。
クラシックバンドでのDXCCハンティングが一段落して、新たな目標を求めてWARCバンドへ進出した。SSBとCWが主体ではあるが、RTTYとPSK31へも時々参戦、意外に珍しいエンティティーとQSOができて驚くときがある。
① QRVのきっかけ…読売世界一万局アワード。② Band/Mode…Bandは特になし。ModeはCW Only。
メジャーバンドでDXCCのエンティティー数の伸び悩みと、新居を購入して新しくタワーを建てたことがきっかけです。モードについてはSSB、CW、RTTYに出ています。
アマチュア無線を再開した1991年に地面から立てたHF6Vで運用したところヨーロッパから次から次に呼ばれWARCバンドの楽しさを味わいました。当時は先方もLW、DP、GPなど簡易なアンテナの局が多かったように思います。運用はほぼ100%CWです。
現QTHにタワーを設置する際に始めからWARCバンドにアクティブに出ることを考慮して、5バンド対応キュービカルウッドを上げました。コンディション次第ですが、WARCバンドをワッチする時間のほうの方が長いです。18MHzのCW/RTTYを中心に、24MHzのCW/RTTY、10MHzのCW/RTTYもよくワッチします。
DXCCチャレンジに参加するため。最近では、10MHz CW、24MHz CW/SSB
20年ぶりのカムバックで初めてWARCバンドにQRVしました。よく出ているバンドは10MHz、18MHzのCWです。
モバイルでHF帯運用を始めた2000年から10MHzを。珍エンティティーと意外にも簡単に交信できて大好きになりました。MODEはCW/RTTY(でも最近では18MHzが多い、hi)。
WARC BANDのDXCCを達成するため。24MHzのCW。
CWを覚えようと、10MHzに出てみたのがきっかけです。理由はユックリ国内QSOをして、受信能力を上げようと思い始めましたが、早朝必ずこのバンドから聞き始めコンディション把握をしています。現在は18MHzに出ることが多いです。カリブ海のPJ7やアフリカの新しい国STORなども交信できました。
3アマになって、14MHzの伝搬に近い18MHzに出られるようになったのがきっかけです。とにかく、RIGに火を入れたらまずは18MHzをワッチします。バンド内をくまなくワッチして、モードを決めますが、やはりCWがメインです。
WARCバンドが解禁になったとき。18MHz SSB、10MHz CW。
1989年7月に18MHz、24MHzが開放されたときに、CQ誌の特集記事を見て慌てて無線機を対応させるための改造及び変更申請を行いON AIRしました。18MHzのCWを中心に現在は運用しています。
昔はWARCバンド対応のリグを持っていませんでしたが、カムバックをきっかけに購入したオールバンドHF機で自然と出るようになりました。特によく出るバンドというのはありませんが、モードはCWが圧倒的に多い。
2006年2月に運用された3Y0XとQSOするために、アンテナの残骸で18MHzのロータリー・ダイポールを作って屋根の高さに縛り付けてQRVしました。2時間くらい呼び続けて100WでQSOしたのがきっかけです。最近では18MHzのSSBやCWでDX'ingを楽しんでいます。
以前はCD社の318Bで14/21/28の3バンドにQRVしていましたが、WARCにもQRVしたいという気持ちになり、すぐには“えい！やあ～！たあ～！”とWARC専用のアンテナを上げることができなかったため、IC-775DX IIの内蔵アンテナ・チューナでチューニングを取りQRVを開始したのがきっかけです。現在は12mのDXCCが完成目前なので、最近ではよく12m CWを聞いています。
再開した時にはすでにWARCバンドがあり、昔に比べずいぶんバンド数が多くなったなど思いつつ自然にQRVしました。ただしバンド端は切りが良くなく、10.100MHz、18.068MHzや24.890MHzから始まることに戸惑いました。よく出たバンドは18MHz CWです。DXに良く飛びました。
長いQRT後カムバックして新しく無線機を買ったらWARCバンドが付いていて、これは面白いと思ったから。WARCバンドを含めてオールバンド、オールモード運用ができないとアマチュア無線はやっていけない。
3アマ時代、18MHzが面白いと聞かされて、QRVを開始。当初は移動運用が主体でアンテナはモバイル・ホイップのみ。でもこれが意外とよく飛んでくれた。

2) WARCバンドのどんなところに楽しさを感じますか？
14MHz帯や21MHz帯では5エレメント以上のアンテナを使う局にとってもかきませんが、18MHz帯や24MHz帯だとエレメント数の少ないアンテナでも楽しめが多いと感じます。私の場合、DXCCにおいてWARCバンドでのみ交信できているエンティティも多いです。
なし
3アマ以上でないと出られないので、まず局数が少ないのでバンドが静かである。特に18MHzは、14MHzと21MHzの中間的なコンディションのため、1年を通じて、比較的安定して聞こえる。
クラシックバンドの中間だからバンドオープンの仕方が、上のバンドに近かったり下のバンドに近かったり両方の性格が出る。上のバンドでは朝からアフリカはなかなか開かないが、下のバンドのように朝からアフリカが聞こえてきたり気が抜けないですね。クラシックバンドのアンテナの上にWARCバンドのアンテナをクリスマスツリーで上げるとかなり影響が出てSWRが高くなったりパターンが乱れたりするので、影響をなるべく受けない角度で上げるようにしたいですね。
最近こそWARCバンド人口が増加傾向にはあるが、何と言ってもクラシックバンドと比較してパイルアップが小さいことが大きな特長。近年の大きなDXペディションは必ずWARCバンドにもQRVしてくれるようになり、18MHzは時として14MHzよりも良好なパスが認められることも多く、DXCCハンティングには必要不可欠なものになっている。
① 特に10MHzは、予期しないところが開けることがある。② QRVしている局が少ないためQSOしやすい、またワッチしているJAの局が少ない。③ 運用方法はIPBとCQ誌の伝搬状況を参考にしながら。④ アンテナはロータリー・ダイポール。
やはりクラシックバンドと比べて運用する局数が少なく感じます。逆に考えれば競争相手がそれだけ少ない分珍局との交信の可能性が大きいと感じます。
適度にバンド幅が広くのんびりと運用できます。30m/17mは20mに負けぬDXバンドでパスが開いている時間が長いのでどこか聞こえています。コンテストが行われていないので大きなコンテストが開催されている週末はWARCバンドを運用することが多い。
コンテストに使われることがないので、大きなDXコンテストの時もWARCバンドに退避して、通常のDX交信を楽しめます。
まだマナーが良いと思います。また、ゆっくりQSOができます。バンドによりDXに対する伝搬状態が違うのが興味あります。
コンテストがないのでクラシックバンドが騒がしいときでも静かなこと、そしてQRVしている局数がクラシックバンドと比べてやや少ないかなと感じました。
最近ではWARCバンドでも多素子・高利得のビーム・アンテナを使用する局が多いようですが、クラシックバンドよりはパイルアップ時でも応答率が良い(私の錯覚でしょうか？ hi)。
各バンドが比較的混んでいないことと10MHzや18MHzは安定していること。狭いバンドなのでワッチがこまめにできること。欲しいところの局が出てくる割合が多いこと。24MHzは局数も少ないので、ゆっくりとQSOできること。
珍局が出てきてもパイルアップがそれほど大きくならず、順番をジックリ待っていると交信できることが多いですね。特に朝方はローパワーにダイポールでもチャンスが巡ってくるので、コンディションのピークをうまく捕まえて呼ぶことが大切です(ロングコールは厳禁です)。10MHzが年間を通じて開いていて、各ペディションも必ず出てくれるのでDXCCを目標にしている方には励みになると思いますが、アンテナも大がかりでなくダイポールで十分ですよ。
バンド幅が広くないので、ちゃんとワッチをしていれば、クラスターアップ前にDX局を発見でき、非力なパワーとアンテナでもDX局との交信数を飛躍的に伸ばせ、電波は届いていることが実感できました。
アンテナが小さいので一つのタワーに10/18/24MHzが上げられる。10MHzはCWだけなのでSSBで聞かれる変な局が少ない。18MHzは日の出、日の入り時のパスがおもしろい。24MHzは50MHzのように夏場のEスポシーズンがねらい目かな。
開放当初はONAIRする局も少なく、出ている局と片っ端から交信していた。またレギュラーバンドに比べるとパイルも少ないためDXの珍局とも容易に交信ができました。10MHzについては、2級以上の上級資格が必要なため資格取得の励みにもなりました。
クラシックバンドではビッグ・アンテナを使用している局でも、WARCバンドではダイポールだったりが多いようで、私のような弱小局にもDXとのQSOのチャンスが回ってきやすい。
クラシックバンドとは違った伝搬がありますね。今までクラシックバンドが開けていないとDXとはQSOができなかった時間でも、WARCバンドが加わったことでDXとQSOができるチャンス(窓口)が増え、DX'ingをする時間も増えてきました。
DXペディションで、クラシックバンドではパイルアップでQSOできなかったエンティティが、WARCバンドでは案外容易にQSOできたこと。
コンテストは面白いのですが、参加しない(参加したくない)場合もあるので、WARCバンドはそのような場合もってこいです。コンディションにもよりますが、18MHzや24MHzでは100WのCWでCQを出すところからヨーロッパから連続して呼ばれることがありました。クラシックバンドではそうはいきません。
10MHzでいえばCWとRTTY限定で2アマ以上というのがうれしい。
18MHzはときには14MHzより飛んでくれることがあるから不思議。10MHzは国内交信、海外交信ともよく聞こえてくる。記念局からQRVするとこれでもかというくらいに呼んでもらえるところがいい。WARCバンドはどれもバンド幅が狭いので、ワッチする範囲が狭くてラク、hi。

3) 主な交信相手は国内局？ 海外局？ 両方？
国内局との交信は、ここ数年少なくなりました。一時期の18MHz帯はスポラディックEが発生すると大にぎわいでした。その後JCCハンターの需要はだいぶ満たされたのでしょうか。WARCバンドの中で、特に10MHz帯と18MHz帯はDXCCを増やすのに助かっています。
DXCC CHALLENGEアワードのためなので主に海外局との交信が主体です。
DX局、国内局の両方です。
DXCCを追いかけますが、QSOパーティなどのときは10MHzに出たり18MHzのEスポで国内QSOもしています。
交信相手は海外局が主体。DXCCハンティングが主目的だが、バンドがオープンしているときはPSK31でEUやUSAの局とのラグチューを楽しむこともある。
DXを追いかけている。2000エンティティが目標(3.5~28MHz)
主にDXCC、IOTAを追いかけしています。国内は移動運用サービスをたまにしています。
海外局主体です。
ほぼ100%が海外局です。DXCCだけを追いかけしているわけではありません。
DXが多い(95%)、国内(5%)。
DXCCやJCC、JCG、そして道の駅など、とにかくNewであればコールしています。
DXCCだけではなく、海外局との交信が9割以上です。
DXCCを追いかけている。国内局とはCWでゆっくりとラグチューQSOしている。599 QSLは好まない。ただし必要なときはする。

私は当初JCC&JCGを目指していましたが、早朝運用なので国内は開いていないので自然にDXを追っかけるようになりました。DXCCを少しでも増えれば良いなあ〜と毎朝ワッチしています(継続は力なり)。
なんと言ってもDXがメインですが、早朝の北米/南米から日中はアジア/オセアニア/国内とQSO。夕方から深夜にかけてヨーロッパからアフリカへと移り変わり、結局、国内外で楽しめています、hi。
おもに海外の局とQSOしていますが、DXペディションの局を狙っています。
国内、DX関係なくQSOしています。現在はWARCバンドのDXCCを完成させるべくQSLカードを回収するために多数請求しています。
主にDX。初めてQSOするエンティティーとの交信がWARCバンドであることがよくあり、全体の4分の1のエンティティーが10MHzまたは18MHzでの交信となっています。
主にDXを相手に楽しんでいます。最近のDXペディションはほとんどがWARCバンドにもQRVしてくれるので楽しめますね。
もっぱらDXCCを追いかけています。交信相手は海外専門。あとは知り合いのDX'er諸氏との情報交換。
DXCCを追いかけています。
海外局のみ。DXCC限定。
10MHzは主に国内局。記念局運用でよくQRVする。このバンドには記念局が出てくることが多い。18MHzは海外局と国内局が半々くらい。フォーンの割合が高い。24MHzは、ほとんどが国内局。

<b>4) どんなアンテナを使っていますか?</b>
10MHz帯はナガラのロータリー・ダイポールTD-3040、高さ24メートル。18,24MHz帯は3エレメントSteppIR、高さ22メートルです。
従来は、Loaded Dipoleでしたが100エンティティーを越したころから限界を感じ、現在は30mHのクランクアップ・タワーに乗せた3エレメント STEPP IRを使用しています。
15mH 2エレメントHB9CV。
ナガラT3-3VX 20mH。ほかのバンドに影響が出るのでクラシックバンドとは別のタワーに上げています。一緒に上げていたときより7m低くなったので聞こえに影響はありますが、その分パターンはきれいに出ています。
18MHzと24MHz用は、給電点22mの4エレメント・デュアルバンド八木アンテナ(位相給電タイプ)を使用。上下に他バンドのアンテナがあり、その影響が少なからずあると思われるが、期待どおりに動作してくれている。10MHzは、給電点18mのZeepアンテナ(動作はダイポール・アンテナ)を使用、こちらは耳・飛びともにすでに限界を感じている。ゲインのあるアンテナの採用を検討はしてみるものの、波長も長く容易にはいかない。
18mHロータリー・ダイポール
1本のアンテナで40mバンドから10mバンドまで出られるナガラのT59GX-3040というアンテナを約24m高に設置しています。
30m DP 10mH。17m/12m 2エレメントPhased beam 10mH。G5RV
14MHzから28MHzまでは2エレメント、5バンドのキュビカル・クワッドです。クランクアップタワーを最大伸ばした状態で、給電点の高さは約20mです。10MHzはタワートップに上げた約9m長の垂直アンテナとアンテナ・チューナの組み合わせです。
10/18/24MHzの3バンド用3エレメント八木です。高さは17m。
マンションの11階のベランダ(約30m)から、4.5mの釣り竿アンテナを使っています。
既成品・自作品を含め、すべて車のハッチバックに取り付けたモービル・ホイップ・アンテナです。
2エレメント八木25mH。
10MHzはロータリー・ダイポール、18MHzはデルタ・ループを18mHで使っています。デルタループはなぜか24MHzにも共振してくれてDXCCも60を超えました。
各バンドともに、2エレ動作のHB9CVを屋根馬に上げてます。給電点は11m強でしょうか。WARCバンド専用のモノバンド多エレメントとは勝負になりませんが、電波は確実に飛んでいってくれています。
18/24MHz...248A(デュアルバンド八木)12mH。10MHz...AFA30(2エレ八木)14mH。
運用開始当初は各バンドフルサイズ・ダイポールを使用していました。現在はATUを利用した逆Lタイプのアンテナ1本にWARCバンド3BANDIに出ています。
自宅では逆V型に張ったハーフサイズのG5RV。給電点高9m。7~50MHzの全バンドで使用できます。移動運用では、14/21/28MHz用の2エレHB9CVとアンテナ・チューナで無理矢理WARCバンドにもQRVしています。
10MHzはNAGARAのTD-3040(RDP)24mH。18/24MHzはクリエートの248A(18MHz 3エレ/24MHz 4エレ)27mH。
13メートル長のロング・ワイヤとICOMのアンテナ・チューナAH-4(地上高10メートル)。
マンション最上階に居宅があったので、釣り竿ホイップ・アンテナをほぼ垂直に立てていました。釣り竿は6.3mと10mのもの2本を状況に合わせて使用していました。給電点は39m。アースは建物のですり。マッチングはAH4とマニュアル式アンテナ・チューナの併用。10mの釣り竿にはほかの釣り竿の先端を追加して全長11.5mにして使用していました。
ミニマルチ製RN4DXロータリー・ダイポール。住宅団地2階建てルーフ・タワーでは、これが限界。
はじめはモービル・ホイップのみ。自宅に上げていたサガ電子のSD-660(21/28/50/144MHz用アローライン)に、無線機内蔵チューナでチューンを取ってQRVしたことも。現在自宅ではAH-4+ロング・ワイヤ。移動運用では、10MHzはモービル・ホイップ、18/24MHzは自作釣り竿VDP。

<b>5) 普段はどれくらいの出力で運用していますか?</b>
国内は50~100W。海外はアジア~ヨーロッパ方面向けにCQを出すときは50~100W。珍しい局を呼ぶときは500W。なお免許は1kWです。
FT DX 9000DでPEP 200Wです。
SWLなのでワッチ専門です。
国内や近場のDXはベアフットでアフリカなどは1kWの出力です。パイルアップがなければ500Wでエコ運用しています、hi。
クラシックバンドほどパイルアップも大きくならないので、200W出力で十分である。また、デジタルモードは100Wまたはそれ以下での運用が多い。相手局もベアフットの局が多いように感じる。
100~200W。



免許されている1kWで使うことが多いです。
5W~200W
200Wで運用しています。
10MHz 500W, 18/24MHz 200W程度。DXペディション局をコールするときは、1kWです。
普段は50WでDX・国内との交信を行っていますが、ときどき5W以下のQRPでコールしてピックアップしてもらうことに快感を得ています (hi)。
通常はモバイル移動局で、局免許目いっぱい50W。バッテリーが不安なときやPSK31の運用時には20W程度にQRPLします。
国内100W, DXペディション200W。
コンディションにもよりますが、普段は200Wが多いです。しかし、インタフェアを考えると100W前後です。国内は50Wで運用しています。
50Wを上限に運用しています。RTTYでは、20W程度がメインです。日中の国内やオセアニアはCWモードでは10Wでもバッチリです。
免許は200Wですが100W運用のほうが多い。TVが地デジになりましたのでそろそろ1kWへの変更を計画中。
国内、DX問わず100Wで運用しています。
常時50W。200W免許が欲しいものの、市販の200Wリニアがなく自作する暇もなく手軽に増力できません。
ほとんどがDX運用なので1kWで運用しています。
10MHzと18MHzは100W(IC-736)。24MHzは200W(IC-775DX II)。
リグはFT-100だったので、100W免許をいただき100Wで運用していました。周辺への電波障害もまったくなくすだだったのでフルパワーで運用していました。
いつもリニアアンプ使用。750W定格免許。実際は500Wくらいしか出ていない。ペアフトでは飛ばない。電波防護指針の問題でルーフ・タワーに1kW免許はおりませんでした。
自宅では100W, 移動運用ではFT-817で5W運用が多い。

<b>6) 思い出深い交信はありますか？</b>
最近では3C9B Equatorial Guinea, 3C0C Annobonが私には貴重でした。少し前では4U1UN United Nations HQ, EA9IE Ceuta & Melillaも。そのほかにWARCバンドでのみ交信証を得ているのはVP8 Falkland Islands, TK Corsica, PZ5RA Suriname, PJ4/N5WR Bonaire, KP2M US Virgin Islands, FM5CD Martiniqueがあります。
VK0IR, VP8ORKなど1st QSOは、すべてWARCバンドから交信できたこと。
WARCバンドが割り当てられ、初めて聞いた1989年8月10日のDXはK6ST1局、国内はJO3BMB局が思い出に残っています。
アンテナが3エレメントのわりにはほとんどQSOができていますが、サウスオークニーのDXペディションでタイミングが合わず18MHzでQSOできなかったのが残念です。
2007年12月にニュー・エンティティーとなったFJ Saint Barthelemyはブランド・ニューで世界的な大パイルアップであったことに加え、地理的に最もQSOが困難とされるカリブ諸島に位置していたことから、なかなかQSOのチャンスに恵まれなかった。翌年の10月に何度目かのDXペディションが決行され、18MHz CWで何とかQSOに成功、思い出のQSOの一つになった。ちなみに先日誕生したST0 South Sudanの最初のペディション局であるST0Rは、何度かQSOのチャンスに恵まれたが、やはり18MHz CWが最初のQSOであった。
① 夏の暑い日、朝早く目が覚め10MHzでSAがかすかに聞こえたが呼べる信号ではなかったそこで、普段はあまり出さないCQを出していたらVP8NO Falklandから呼ばれてビックリ！ ② 交信できなかったのはたくさんあり。
2009年2月に運用が行われたDesecheo島K5Dと17mバンドで、SSB/CW/RTTYの3モードで交信することができたことです。
3Y0X on 30m. DXペディションの期間と海外出張が重なり、ペディションの最終日に帰国し、何とか1 QSOを確保しました。
ピーター一世島からの3Y0Xと18MHzのSSBで交信できた時が一番思い出深いです。ローカル・ノイズがひどくて相手の信号がクリアにコピーするのが難しかったのですが、AGCを切ったり、いろいろ工夫して信号を浮かび上げさせ、QSBの山で信号が上がった瞬間にコールバックがあり、交信に成功しました。
最近では、VP8ORKの弱い信号ながらQSOできたこと。
8J1RLなど、南極とのQSOです。
2006年の3Y0Xと10MHzでの交信、狭い車内で3日間粘った甲斐がありました。最近ではST0R(18MHzのRTTY未交信)、画面上にしっかりとST0Rのコールサインが映ったとき。
今回のST0Rの24MHz CWは、8エリアでは蚊の屁のシグナルでコールバックを聞きとるのに苦労したこと。
悔しい思いはK5D デセチエオ島ですね。DXCCを追っかけはじめのころだったので、どこで呼んだらいいのか分からず、拾われてる周波数に合わせて呼んでましたので遂に最後まで交信できませんでした。これを教訓に以後の珍局を呼ぶときは、ジックリ拾ってるパターンを呼んで呼ぶようにしています。
家族が寝静まった深夜に18MHz SSBでカメルーンが入感。思わず“ジャパ〜”と何度もパイルに参戦。家族の安眠とQSOを天秤にかけて、QSOを選択したのも良い思い出です(笑)。カメルーン1UP, hi。
いつもですが自分の順番が来るまでに時間がかかる。Zone2の局のカードはまだ1枚しかない。先日18MHzで2局目のVE2CSI局とQSOできたのでカードが届くのが楽しみです。
WARCバンドでしか交信ができなかった所もあります。最近ではST0R(南スーダン)も18MHzだけしか交信ができなかった。
18MHzは良く飛ぶ印象があります。ペランダに建てたいい加減な長さのデルタループでST2ARが強力に入感し、簡単にQSOできたことが忘れられません。「これぞ18MHz」というQSOでした。
やはり18MHzでの初めてのQSOとなった3Y0Xですね。まさかタワーに電線で縛り付けただけの高さが屋根くらいしかないロータリー・ダイポールでできるとは思ってもいなかったのうれしかったです。
5エレのトライバンド八木(CD社の318B)にIC-775DX IIの内蔵アンテナチューナーでチューニングを取りQRVしていたところにQSOした、3B7C St.Brandon Is.やFT5XO Kerguelen Is.です。QRP終盤だったこともあり、比較的楽にQSOできました。
18MHzではJX7DFA(Aug. 2002), ZB2FX(Sep. 2006)。24MHzではZD9IR(Aug. 2002), 9U0VB(May 2007)。10MHzではZM8CW(Oct. 2003), VU7RG(Jan. 2007)。
DXペディションでほかのバンドでQSOができず、WARCバンドのみでQSOできたということが多々ある。
早朝に記念局で10MHzを運用したとき、多くのDX局に呼んでもらった。24MHzで国内向けにCQを出していたところ、KH2に突然コールされビックリ！

7) WARCバンドを楽しむうえで、工夫点はありますか？
PSK31やRTTYも運用するようにしています。
ダイポールと100Wでも100エンティティは確実にQSOできます。運用面ではクラスターに載ってからでは対応不能なのでそれよりも先に見付けること。
21/28MHzの八木アンテナと干渉するので、アンテナを位相するなどしSWRを下げる工夫が必要です。
クラシックバンドとの影響があるので一緒に上げていて飛ばないと感じている人はパターンを見てみたらいいと思います。SWRはそんなに悪くなくてもクラシックバンドの影響を受けてFB比が悪くなったり、ゲインに影響を受けているかもしれません。トライバンドのアンテナでも特によく出るバンドのエレメントを一本追加するだけで飛びが良くなると思います。SWRなど見ながら工夫して自分のオリジナル・アンテナにするのも楽しいです。
WARCバンドに限ったことではないが、エレメントが1本でも多いアンテナを1mでも高く設置することが良好な結果を生む。試行錯誤の結果、現在使用中のアンテナに落ち着いた。基本的にWARCバンドだからといって特別なことを考慮する必要はないと思われる。
① 工夫はないがワッチが一番。② 現在TS-850でスキャンさせ、FT-1000でQSO。
17mバンドはDXと国内局の入感時間があまり重ならず、12mバンドは10mバンドに似たバンドで神出鬼没なバンドです。30mバンドは国内外の運用がよく聞くことができますし、当局は12.6mの短縮ダイポールで250以上のエンティティと交信しています。国内の移動運用局の追っかけも面白いバンドだと思います。
どのバンドにも常に出れるようにアンテナを準備している。
狭いバンドでDX局も常連さんが多いですが、できるだけよくワッチするようにしています。短時間のオープンを運よくとらえることもできます。
DX QSOでは、最低八木が必要。ワッチ、ワッチ、クラスターに上がったら、当局の一般的な設備ではDXはしんどい。
クラシックバンドと特に変わりなく運用しています。
18/24MHzはグラスファイバ製の釣り竿を利用した無短縮ホイップ(モノポール)アンテナで損失を減らしています(装着したまま走行はできませんが、hi)。
DX局に対するアンテナは3エレメント八木以上が必要である。
ロング・コールをしないようにしています。また無理と諦める勇気も必要です。その日はだめでも、次の日にノー・パイルで交信できたことは何回もあります。いろんなバンドに出たいので干渉はある程度目をつぶって、極カダイポール系と3エレメント程度の小さなアンテナを上げて珍局が現れたら瞬時に切り替えて出られるようにしています。
とにかく、暇さえあればバンド内をグルッとワッチすることです。常にバンド内をワッチして、コンディションの把握と、各モードの運用局発見で、クラスターUP前の交信を目指します。
アンテナも小型で手軽に楽しめるバンドです。DX局も多くQRVしているのでDXCCも稼げやすい。コンテスト中でもWARCバンドは除外されているのでラグチューができる。
比較的10MHz、18MHzについては伝搬が14MHzに似ている性質があり、国内もDXも安定して交信ができます。そのときのコンディションの状況を見て国内、DX問わず交信をしています。またWARCバンドではコンテストが開催されていないので、コンテストなら多く交信できるエンティティでもなかなか交信できないこともあり、違った楽しみもあります。
乱暴な方法ですが、クラシックバンド用トライバンドのトラップ・コイルの両端を短絡させると、アンテナ・チューナ使用で18MHzにQRVできます。これでSTORとQSOできています。
18MHzはバンド幅も狭いので、珍しいエンティティはすぐにパイルになってしまいます。ワッチは大切です。24MHzは地域性がはっきりしていてオープンする時間も短かったりするのでやはり難しいバンドだと思います。しかし、難しいがゆえに楽しさもあるのかもしれない。
コンディションの良い時は、WARCバンド(特に24MHz)は欠かさずワッチ！
QRVごとにベランダにアンテナ設営の必要があり、設営・撤去の時間短縮はとても重要でした。簡単な釣り竿ホイップにたどり着くまで、ベランダから張り出したデルタループ、短縮ダイポール、ロング・ワイヤなども試しましたが、単純なほぼ垂直に上げた釣り竿ホイップが伸ばすのも縮めるのも早く、飛びも一番良いことがわかり愛用していました。狭いベランダ内で極力場所を取らないことも重要です。
5 BAND DXCCにカウントされないことやコンテスト対象外のためかコストをかけにくい。最低でも18MHzは2エレのフルサイズHB9CVは欲しい。
WARCバンドだからといって、特に工夫というものは無い。ほかのバンドと同じ。

8) これからWARCバンドを楽しみたいという人にアドバイスとコメントがあればお願いします
18MHz帯から始めてみると、海外局との交信が楽しみやすいので良いと思います。電波型式はCWやPSK31が良いと思います。また18MHz帯は8J1RL 南極昭和基地とも交信しやすいかと思えます。国内向けには10MHz帯は伝搬が安定しておりJCCも増えると思えます。特に休日の昼間にお勧めします。
よろしく願いいたします。
DX局と交信する場合、最近では各局ともアンテナ設備が抜群に充実しているため、2エレメントではなかなか聞こえにくいですが、一にワッチ、二にワッチの精神で、早く探し出すことだと思います。
まだまだ平均のアンテナが3エレメント・クラスなので小さいアンテナで楽しめると思えます。長期のDXペディションでは、ダイポールやモービル・ホイップを使用している局にも順番が回ってくるので、アバマンの方やモービル運用の方でも面白いと思います。DXも国内も楽しめて、18MHzなどは1年中QRVできます。コンディションが上がってきて14MHz、18MHzがメイン・ストリートになりつつありますが、これからもっと良くなると24MHz、28MHzがメイン・ストリートとなるのでしょうか…。とにかくクラシックバンドと組み合わせるとQRVできるようにすれば、楽しめるバンドが広がるでしょう
アマチュア無線のスタイルはさまざまであり、各自の価値観で楽しんでいけば良いものではあるが、もしWARCバンドの世界を知らない人がいれば、ぜひ一度バンドをのぞいてみることをお勧めする。特にDXCCハンティングに傾注している方にはお勧めのバンドである。
①IBPの活用。② インターネットに流れたのではクラシックバンドと同じでQSOが難しくなる。自力で見つけ早くQSOを済ませる。
クラシックバンドに比べて運用局数は少なく空いています。でもDXの運用局も多く、国内の移動運用局もたくさん聞こえてきます。特に40mバンドと20mバンドの中間的な伝搬を持った30mバンドの運用をお勧めします。ダイポールでも国内外の局と大いに交信を楽しむことができるからです。
ダイポール/グラウンド・プレーン+100Wのヨーロッパの局ともたくさん交信しています。簡単なアンテナでも十分楽しめるので、まずは運用してみてください。
なし
国内QSOならダイポール、WARCバンド用V型アンテナで十分です。気軽に出てみてください。ただし、DXと国内の移動は周波数を分けてください。18MHzだと18068~18080がDX用、18080~18090国内用とか。決まりじゃないけど、紳士協定をお願いします。

初めてWARCバンドにQRVした時、中学生でアマチュア無線を始めたころのようなフレッシュな感じを覚えました。それをぜひ味わってください。

最近ではコンディションも上昇しており、18/24MHz帯では国内Eスポ・DX交信でにぎわっています。簡単なアンテナでも十分実用になります。皆で楽しみましょう。CWでのQSOをお勧めします。

国内&国外ともCWモードでぜひ出てみてください。受信の聞き取りがなかなかできなくシミュレーション・ソフトで練習している方は、実戦で腕を上げるほうが効果があります。でもどうしても聞き取りが上手でない方は、最近の良いCW解読ソフトがあるので、これを利用して相手が何を打っているのかを耳と目で確認します。場数を踏めば余裕もでき、そのうち馴れてきますよ。続けていれば必ず聞き取れるようになりますのでぜひトライしてみてください。

サイクル24で(?)、コンディションも上昇しています。JARLのアワードにはWARCバンド専用のものも用意されていますので、アワード獲得を一つの目標に掲げて、楽しませてみてはいかがでしょうか。

マナーをまもって無線技士の免許にふさわしいQSOを心がけましょう。

特に10MHzは2級以上、18MHzは3級以上の資格が必要となります。上級資格取得の励みのひとつにもなります。ぜひ上級資格を取得して国内もDXも比較的安定して交信ができるWARCバンドを楽しんでみましょう。

WARCバンドに出られると、DXベディションの際などにQSOできる可能性が飛躍的に向上するのでお勧めします。

特に18MHzは3アマでもQRVできますし、DXバンドの14MHzと21MHzの間にあるのだから当然のようにDXバンドです。50WでもDXとQSOできるチャンスはたくさんありますから、ぜひ楽しんで欲しいと思います。

伝搬的に興味があり、面白いバンドだと思います。

WARCバンドに限りませんが、都市部では外来ノイズが多く、微弱な信号をピックアップするにはSSBよりCWが有利です。CWの運用をお勧めします。また、CQを出すすと100Wでも結構DXから呼ばれます。コンディションが良さそうときは、積極的にCQを出しましょう。50Wでもかなりできると思いますので、DXを楽しむなら3アマの方は18MHzのCWはお勧めです。SSNの低いときでもDXとの交信は可能です。

3アマの方で自称18MHzがメインバンドで18MHz命の方が多く、皆さんビッグ・アンテナを使用されとても太刀打ちできない。10MHz、18MHz、24MHzをまんべんなく楽しむために上級ライセンスをとることをお勧めします。

とにかく、まずQRVしてその楽しさを体験してほしい。14/21/28MHzに出られるアンテナがあれば、リグ内蔵のチューナでチューンが取れるかもしれない。効率は良くないが、出られないよりはいい。3アマの方はぜひ18MHzに出て欲しい。国内交信も海外交信も楽しめる。

## 回答していただいた皆さんより寄せられたWARCバンド用アンテナ



2エレメントHB9CV 15mH  
Txn JA3-6050



18/24MHz用4エレメントデュアルバンド八木 22mH  
Txn JA7XBG



ナガタT59GX-3040 24mH  
Txn JE1LFX



10/18/24MHz用3エレメント八木 17mH  
Txn JH4JNG



30mH 4.5m長釣り竿アンテナ  
Txn JH5BJU



13m長ロング・ワイヤ+ICOM AH-4 10mH  
Txn JR0AMD



18mH 10MHz用ロータリー・ダイポール、  
18MHz用デルタ・ループ(24MHzにもなぜか共振)  
Txn JH8LLE



クリエートデザイン製 18/24MHz用248A 12mH、  
10MHz用 AFA30 14mH  
Txn JI7HAV



14/21/28MHz用の2エレHB9CVのトラップ・コイルの  
両端を短絡させアンテナ・チューナを使って18MHzに  
QRV Txn JL3LSF





10MHzはNAGARAのTD-3040 (RDP) 24mH.  
18/24MHzはクリエートデザインの248A  
(18MHz 3エレ/24MHz4エレ) 27mH  
Txn JN1NDY



ほぼ垂直に立てた給電点39mHの釣り竿ホイップ  
(6.3mと10mを使い分ける) . AH4とマニュアル・  
チューナの併用しアースは建物のてすり  
Txn JR1GJP



20mH 14~28MHz 5バンド 2エレメント・キュビカル  
クワッド. 10MHz用約9m長の垂直アンテナ+アンテ  
ナ・チューナ  
Txn JH3SIF



ロータリー・ダイポール 18mH  
Txn JA8BBD



2エレメント HB9CV 11mH  
Txn JI1SAI



ミニマルチ製 RN4DX ロータリー・ダイポール  
Txn JR7COP

### 回答にご協力いただいた皆さん

今回のアンケートには次の皆さんに回答のご協力をいただきました。ありがとうございました。  
7K1PTT, JA2FGL, JA3-6050, JA7MSQ, JA7XBG, JA8BBD, JE1LFX, JG1EIQ, JH3SIF,  
JH4JNG, JH5BJU, JH7BMF, JH8LLE, JI1SAI, JI7HAV, JK2VOC, JL3LSF, JN1NDY,  
JR1GJP, JR7COP, JR0AMD, JA1YCQ

**CQ ham radio**